

利用客の実態にみる宮城県の一軒宿の特徴

著者	酒井 宣昭, 南河 麻希
雑誌名	東北学院大学東北文化研究所紀要
号	48
ページ	23-35
発行年	2016-12-25
URL	http://id.nii.ac.jp/1204/00023882/

利用客の実態にみる宮城県の一軒宿の特徴

酒井 宣昭・南河 麻希

I. はじめに

「一軒宿」は、旅行雑誌や宿泊施設の Web ページ、旅番組などでは使用される語句であるが、その定義は法令や辞書に記載されていない。広辞苑(1999)には、「一軒宿」に近い語句として「一軒家・一軒屋」と「宿」の意味が記載されている。それぞれの意味をみると、「一軒家・一軒屋」は「あたりに家がなく、一軒だけ建っている家。孤家。」で、「宿」は「一時泊る所。旅先で泊ること。また、その家。はたごや。宿屋。旅館。」と記載されている。この2つの意味を合わせると、「一軒宿」は「あたりに旅館がなく、一軒だけ建っている旅館」と捉えることができるだろう。しかし、「あたりに旅館がなく」の部分は、旅館と旅館の距離が曖昧であるため、「一軒宿」の定義を示すことは容易でない。

一軒宿に関する研究は、国立情報研究所が運営している「NII 学術情報ナビゲータ (CiNii)」で検索した結果、18件のみであった(2016年8月31日時点)。これらの文献は一軒宿の泉質、効能、浴場、客室、景観、料理などを紹介したものであり、地理学の視点からの研究は見つけることができなかった。また、これらの文献では、タイトルに「一軒宿」が使用されているが、その定義は記載されていなかった。野口(1999)は大雪高原温泉(北海道)、蔦温泉(青森県)、甲子温泉(福島県)、平家平温泉(栃木県)、高峰温泉(長野県)、角神温泉(新潟県)、渡合温泉(岐阜県)、葭ヶ浦温泉(石川県)、びわ湖温泉(滋賀県)、天見温泉(大阪府)、小田温泉(島根県)、栗野岳温泉(鹿児島県)にある12温泉地の一軒宿を、ニューライフ編9月号(2000)

では奈良田温泉(山梨県)、名剣温泉(富山県)、法師温泉(群馬県)の3温泉地の一軒宿を、ニューライフ編10月号(2000)では大牧温泉(富山県)、小屋原温泉(島根県)、般若寺温泉(岡山県)の3温泉地の一軒宿を、NTT 労働組合編(2001)では法師温泉(群馬県)の一軒宿をそれぞれ紹介している。これらの事例から、一軒宿の特徴は、①経営者のこだわりが一番の売りであること、②利用客はそのこだわりが好きで訪れていること、③収容定員は少ないため、客室や浴場はツアーや生徒・学生団体などが利用しやすい大人数向けよりも一人や家族、友人などで利用しやすい少人数向けの造りになっていること、④名称は「〇〇温泉△△△△」のように温泉名の後に施設名が付いている一軒宿が多いが、なかには施設名を付けずに「〇〇温泉」のみの一軒宿もあること、の4点を読み取ることができた。前述①のこだわりについては、歴史へのこだわり(開湯の古さ、老舗、伝承など)、温泉へのこだわり(源泉かけ流し、泉質、効能、露天風呂など)、建造物へのこだわり(木造、ヒノキ材を使用した客室、茅葺き屋根、囲炉裏など)、景観へのこだわり(山、川、海、溪谷、湖、朝日、夕日、庭園、橋など)、料理へのこだわり(野菜、肉、魚、山菜、漬物、豆腐など)などがあげられる。一軒宿によっては1つだけでなく2つ以上のこだわりをもっている場合もある。

「温泉」の定義は、温泉法(昭和23年7月10日法律第125号)^{▼1}の第2条に記載されているが、その条件は、①地中から湧出する温水や鉱水、水蒸気、ガス(メタンガスなどを除く)であること、②源泉から採取されるときに温度が25℃以上であること、③19の物質^{▼2}のうち1つ以上が含まれていること、の3点にまとめら

れる。この「温泉」の定義に従って、環境省では日本の都道府県別温泉地名と宿泊施設数のデータを、各都道府県では市町村別温泉地名と宿泊施設数のデータを毎年3月31日時点で集計している。これらのデータでの「温泉地」は、温泉がある場所を地域的なまとまりとして便宜的に区分したものである。また、各温泉地の概要や宿泊施設名は公表されていないため、その範囲は大ざっぱにしか捉えることができない。温泉地と言われると、一般的には熱海温泉や別府温泉、草津温泉、道後温泉などのような宿泊施設が多数ある場所をイメージするのではないかと考えるが、この温泉地のデータでは宿泊施設数が0軒や1軒の温泉地もすべて調査し公表されている。環境省では宿泊施設数が1軒のみの温泉地を「一軒宿」と捉えている。

本研究の目的は、一軒宿の特徴を利用客の実態から明らかにすることである。本稿は宮城県の一軒宿を事例にしたものである。一軒宿の定義は法令や辞書、既存文献にも記載されていないため、ここでは環境省の捉え方に従うことにした。

調査方法は、宮城県が公表している市町村別温泉地名と宿泊施設数のデータ（2003年3月31日時点）から一軒宿の温泉地を特定する作業を行った。その結果、宮城県には一軒宿の温泉地が27か所あることがわかった。しかし、宿泊施設名は公表されていないため、2003年7月には温泉地名と市町村名を手がかりにインターネットでの検索や電話帳、道路地図を使用して宿泊施設名と住所を把握する作業を行った。この作業によって、宿泊施設名と所在地は全部明らかにすることができた。

2003年8月には、一軒宿の経営者に対して利用客の実態（利用客の多い時期、予約方法、利用客の構成、地方別居住地、交通手段、利用客の年代、滞在日数、選定理由、一人あたりの標準料金、好まれる料理や酒）についてのアンケート調査用紙を郵送した。回収率は40.7%にあたる11軒であった。さらに、アンケート調査には各質問の回答に対する詳細な聞き取り調査の可否を質問したところ、可との回答は5軒で

あった。2003年10月中旬～11月上旬には、この期間に承諾していただいた3軒の一軒宿に訪問して経営者への聞き取り調査を行った。本研究のⅡ章以下は、このアンケート調査と聞き取り調査の結果による分析である。

本研究の構成は、まずⅠ章では一軒宿と温泉の定義、一軒宿についての既存文献を整理した後、本研究の目的と調査方法について明らかにする。続くⅡ章では宮城県の温泉地と一軒宿の統計的把握を行う。Ⅲ章とⅣ章では、宮城県の一軒宿の特徴を明らかにするため、Ⅲ章では宮城県の一軒宿で行った利用客の実態についての経営者へのアンケート調査の結果（11軒分）から明らかにし、Ⅳ章では宮城県の一軒宿で行った利用客の実態についての経営者への聞き取り調査の結果（3軒分）から明らかにする。最後のⅤ章では、本研究の要点についてまとめる。

Ⅱ. 宮城県の温泉地と一軒宿の統計的把握

宮城県の市町村別温泉地名と宿泊施設数（2003年3月31日時点）^{▼3}は第1表に示した。これをみると、宮城県の温泉地は全体で74か所ある。その温泉地は宮城県35市町村（2016年8月31日時点）のなかで石巻市、塩釜市、多賀城市、七ヶ浜町、柴田町、南三陸町を除く29市町村にある。市町村別の温泉地数では仙台市の14か所が最も多く、それに続いて大崎市と栗原市は7か所ずつ、川崎町は6か所、白石市と加美町は4か所ずつ、蔵王町と大和町は3か所ずつ、他の21市町村は1か所ずつとなっている。

温泉地別の宿泊施設数は0軒から60軒まであるが、このなかで最も多いのは遠刈田温泉（蔵王町）の60軒である。これに続いて、鳴子温泉（大崎市）は55軒、鬼首温泉（大崎市）は28軒、東鳴子温泉（大崎市）と中山平温泉（大崎市）は17軒ずつ、湯元温泉（＝秋保温泉、仙台市太白区）は16軒、作並温泉（仙台市青葉区）と青根温泉（川崎町）と川渡温泉（大崎市）は10軒ずつ、小原温泉（白石市）は8軒、鎌先温泉（白石市）と駒の湯温泉（栗原市）は5軒ずつとなっている。その他、9か所の温泉地では2軒ずつ、

第1表 宮城県の市町村別温泉地名と宿泊施設数（2003年3月31日時点）

温泉地名		宿泊 施設数	温泉地名		宿泊 施設数	
	市町村名			市町村名		
作並	仙台市青葉区	10	湯ノ原	松島町	1	
定義		1	赤沼	利府町	0	
愛子周辺		2	台ヶ森	大和町	1	
青葉		0	南川		1	
宮城野	仙台市宮城野区	0	宮床		0	
若林	仙台市若林区	1	大郷	大郷町	0	
名取川	仙台市太白区	1	富谷	富谷町	0	
茂庭		2	牛野森	大衡村	1	
太白		1	花の杜		0	
湯元		16	川渡	大崎市	10	
鴻の巣		2	東鳴子		17	
神ヶ根		1	鳴子		55	
二口周辺		0	中山平		17	
泉	仙台市泉区	2	鬼首		28	
小原	白石市	8	三本木	2		
鎌先		5	鹿島台	1		
南蔵王		2	鳴瀬川	0		
白石		1	薬菜	1		
神次郎	角田市	1	大森	1		
佐倉		0	切込	1		
遠刈田	蔵王町	60	平沢	色麻町	0	
宮・曲竹		1	涌谷	涌谷町	0	
鎌倉		1	北浦	美里町	0	
追見	七ヶ宿町	0	駒の湯	栗原市	5	
堤	大河原町	0	文字		2	
谷山	村田町	1	温湯		2	
青根	川崎町	10	湯浜		1	
峩々		1	湯ノ倉		1	
かもしか		0	金成	0		
今宿		1	長崎	0		
前川		0	北方	0		
釜房湖周辺		2	原前	0		
大内	丸森町	0	野蒜	東松島市	1	
増田	名取市	1	矢本		0	
下増田		0	女川	女川町	1	
藤浪	岩沼市	0	早稲谷	気仙沼市	1	
荒浜	亘理町	1	総計			286
坂元	山元町	0				

グレーになっている温泉地は一軒宿を示している。

宮城県保健福祉部業務課（2003）：「平成15年3月31日現在・地域別温泉利用状況調べ（浴用・飲用利用分）」により作成。

27か所の温泉地では1軒ずつ、26か所の温泉地では0軒ずつとなっている▼⁴。

この27か所の温泉地は一軒宿になる。第1表ではグレーに着色して示したが、一軒宿は市町村別にみると仙台市(青葉区、若林区、太白区)、白石市、角田市、蔵王町、村田町、川崎町、名取市、亘理町、松島町、大和町、大衡村、大崎市、加美町、栗原市、東松島市、女川町、気仙沼市の17市町村にある。一軒宿の温泉地は、定義温泉(仙台市青葉区)、若林温泉(仙台市若林区)、名取川温泉、太白温泉、神ヶ根温泉(ともに仙台市太白区)、白石温泉(白石市)、神次郎温泉(角田市)、宮・曲竹温泉、鎌倉温泉(ともに蔵王町)、谷山温泉(村田町)、義々温泉、今宿温泉(ともに川崎町)、増田温泉(名取市)、荒浜温泉(亘理町)、湯ノ原温泉(松島町)、台ヶ森温泉、南川温泉(ともに大和町)、牛野森温泉(大衡村)、鹿島台温泉(大崎市)、薬菜温泉、大森温泉、切込温泉(ともに加美町)、湯浜温泉、湯ノ倉温泉(ともに栗原市)、野蒜温泉(東松島市)、女川温泉(女川町)、早稲谷温泉(気仙沼市)である。

このデータから、宿泊施設数が多い遠刈田温泉や鳴子温泉、鬼首温泉、中山平温泉、湯元温泉(=秋保温泉)、作並温泉、青根温泉などは、少なくとも宮城県では周知されている温泉地であるのに対して、前述した一軒宿の温泉地はその地元の人にしか知られていない温泉地も多いのではないかと考える。

Ⅲ. 利用客の実態にみる宮城県の一軒宿の特徴

本章では、宮城県の一軒宿の特徴を明らかにするため、ここでは宮城県の一軒宿で行った利用客の実態についての経営者へのアンケート調査の結果(11軒分)から明らかにする。第2表は各質問で一番多い(メインである)と回答した1位のみをまとめたものである。なお、アンケート調査は複数回答可としているため、質問によっては2つ以上の回答をしている場合もある。

利用客の多い時期についての質問では、観光統計で用いられる四半期別の1～3月、4～6月、7～9月、10～12月の選択肢を設けた。1位は4～6月、7～9月、10～12月の3つであったが、このうち7～9月は未回答の1軒を除く10軒中4軒で最も多く、これに続いて4～6月と10～12月は未回答の1軒を除く10軒中3軒ずつであった。これらをまとめると、利用客の多い時期は一軒宿によって4～6月、7～9月、10～12月と異なるが、全体的には4～12月がメインであるといえる。一年のなかで寒くなる1～3月をあげる一軒宿はなかった。

予約方法についての質問では、電話、インターネット、旅行代理店、観光案内所、その他の選択肢を設けた。1位は11軒すべてが電話であった。このことから、予約方法はインターネットや旅行代理店などではなく電話がメインとなっている。

利用客の構成についての質問では、一人、家族、親戚、友人、職場団体、その他の選択肢を設けた。1位は一人、家族、友人、その他の4つであったが、このうち家族は11軒中6軒で最も多く、これに続いて一人は11軒中3軒、友人とその他は11軒中1軒ずつであった。これらをまとめると、利用客の構成は一軒宿によって一人、家族、友人などと異なるが、全体的には家族または一人がメインといえる。

地方別居住地についての質問では、北海道地方、東北地方、関東地方、中部地方、近畿地方、中国地方、四国地方、九州地方、海外の選択肢を設けた。1位は東北地方と関東地方の2つであったが、このうち東北地方は未回答の1軒を除く10軒中8軒で最も多く、これに続いて関東地方は未回答の1軒を除く10軒中2軒であった。このことから、地方別居住地では東北地方と関東地方であるが、全体的には東北地方がメインといえる。

交通手段についての質問では、自家用車、バス(路線バス、高速バス、送迎バスを含む)、タクシー、航空機、新幹線、電車、徒歩、自転車、その他の選択肢を設けた。1位は11軒すべてが自家用車であった。このことから、交通手

第2表 利用客の実態

宿 番 号	利用客の多い時期	予約方法	利用客の構成	地方別居住地	交通手段	宿 番 号
	1 位	1 位	1 位	1 位	1 位	
4	4～6月	電話	一人	東北地方	自家用車	4
5	10～12月	電話	一人	東北地方	自家用車	5
9	4～6月	電話	友人	東北地方	自家用車	9
11	7～9月	電話	家族	関東地方	自家用車	11
14	10～12月	電話	家族	東北地方	自家用車	14
15	N.A.	電話	一人	N.A.	自家用車	15
19	10～12月	電話	家族	東北地方	自家用車	19
20	7～9月	電話	家族	東北地方	自家用車	20
21	4～6月	電話	家族	東北地方	自家用車	21
24	7～9月	電話	その他	関東地方	自家用車	24
25	7～9月	電話	家族	東北地方	自家用車	25
宿 番 号	利用客の年代	滞在日数	選定理由	一人あたりの標準料金 (一泊2食付、税込)	好まれる料理や酒	宿 番 号
	1 位	1 位	1 位	1 位	1 位	
4	50代	日帰り	泉質（塩化物泉）	5,000円台	N.A.	4
5	70代以上	7泊	効能	5,000円台	魚（県内産、県外産）、野菜（県内産、県外産）	5
9	70代以上	日帰り	効能	3,000円台	山菜（県内産）	9
11	50代	1泊	泉質（単純温泉）	15,000円台	野菜（県内産）	11
14	40代	日帰り	泉質（単純温泉）	6,000円台	魚（県内産）	14
15	60代	7泊	N.A.	N.A.	N.A.	15
19	50代	日帰り	料理	9,000円台	魚（県内産）	19
20	40代	1泊	料金	10,000円台	山菜（県内産）	20
21	60代	日帰り	泉質（塩化物泉）、 効能	6,000円台	魚（県内産）、山菜（県内産）、野菜（県内産）	21
24	20代	1泊	泉質（塩化物泉）、 効能	10,000円台	魚（県内産）、山菜（県内産）	24
25	70代以上	1泊	その他	10,000円台	魚（県内産）	25

N.A.は未回答を意味する。

アンケート調査により作成。

段はバス、タクシー、新幹線、電車などではなく自家用車がメインとなっている。

利用客の年代についての質問では、10代、20代、30代、40代、50代、60代、70代以上の選択肢を設けた。1位は20代、40代、50代、60代、70代以上の5つであったが、このうち50代と70代以上は11軒中3軒ずつで最も多く、これに続いて40代と60代は11軒中2軒ずつ、20代は11軒中1軒であった。これらをまとめると、利用客

はある年代に偏ることはなく、一軒宿によっては20代の利用客が一番多いところもあるが、全体的には40代以上がメインといえる。

滞在日数についての質問では、日帰り、1泊、2泊、3泊、4泊、5泊、6泊、7泊、その他の選択肢を設けた。1位は日帰り、1泊、7泊の3つであったが、このうち日帰りは11軒中5軒で最も多く、これに続いて1泊は11軒中4軒、7泊は11軒中2軒であった。これらをまと

めると、滞在日数は一軒宿によって日帰り、一泊、7泊と異なるが、全体的には日帰りまたは1泊がメインといえる。

選定理由についての質問では、泉質、効能、料理、料金、交通の便、設備、サービス、周辺の観光地、景観、その他の選択肢を設けた。1位は泉質、効能、料理、料金、その他の5つであったが、このうち泉質は未回答の1軒を除く10軒中5軒で最も多く、これに続いて効能は未回答の1軒を除く10軒中4軒、料理、料金、その他は未回答の1軒を除く10軒中1軒ずつであった。これらをまとめると、選定理由は一軒宿によって泉質、効能、料理、料金などと異なるが、全体的には泉質と効能がメインといえる。利用客はこの2つに共通する温泉に期待して訪れるといえる。泉質および効能と回答した場合には泉質名および効能名も記入してもらったが、泉質は4番と21番と24番の3軒が塩化物泉、11番と14番の2軒が単純温泉であった▼⁵。効能は4軒（5番、9番、21番、24番）ともに複数の効能が記されていたが、主な効能は五十肩、神経痛、リウマチ、打ち身、筋肉痛、腰痛、関節痛、胃腸病、婦人病、冷え性、皮膚病、切り傷、やけど、肌荒れ、疲労回復である。

一人あたりの標準料金（一泊2食付、税込）についての質問では、3,000円台、4,000円台、5,000円台、6,000円台、7,000円台、8,000円台、9,000円台、10,000円台、11,000円台、12,000円台、13,000円台、14,000円台、15,000円台、その他の選択肢を設けた。1位は3,000円台、5,000円台、6,000円台、9,000円台、10,000円台、15,000円台の6つであったが、このうち10,000円台は未回答の1軒を除く10軒中3軒で最も多く、これに続いて5,000円台と6,000円台は未回答の1軒を除く10軒中2軒ずつ、3,000円台と9,000円台と15,000円台は未回答の1軒を除く10軒中1軒ずつであった。これらをまとめると、一人あたりの標準料金（一泊2食付、税込）は一軒宿によって3,000円台、5,000円台、6,000円台、10,000円台、15,000円と異なるが、全体的には5,000円台～6,000円台または10,000円台がメインといえる。料金の差が大きいのは、一

軒宿によって客室の広さや築年数、料理の質や数などが異なるためと考えられる。

好まれる料理や酒についての質問では、野菜（県内産）、野菜（県外産）、肉（県内産）、肉（県外産）、魚（県内産）、魚（県外産）、山菜（県内産）、山菜（県外産）、酒（県内産）、酒（県外産）の選択肢を設けた。1位は野菜（県内産）、野菜（県外産）、魚（県内産）、魚（県外産）、山菜（県内産）の5つであったが、このうち魚（県内産）は未回答の1軒を除く10軒中6軒で最も多く、これに続いて山菜（県内産）は未回答の1軒を除く10軒中4軒、野菜（県内産）は未回答の1軒を除く10軒中3軒、野菜（県外産）と魚（県外産）は未回答の1軒を除く10軒中1軒ずつであった。これらをまとめると、好まれる料理や酒は、一軒宿によって野菜（県内産）、野菜（県外産）、魚（県内産）、魚（県外産）、山菜（県内産）と異なるが、全体的には魚（県内産）、山菜（県内産）、野菜（県内産）がメインといえる。魚、山菜、野菜に対して肉をあげる一軒宿はなかった。

以上をまとめると、利用客の多い時期は4～12月、予約方法は電話、利用客の構成は家族または一人、地方別居住地は東北地方、交通手段は自家用車、年代は40代以上、滞在日数は日帰りまたは1泊、選定理由は泉質と効能、一人あたりの標準料金（一泊2食付、税込）は5,000円台～6,000円台または10,000円台、好まれる料理は魚（県内産）、山菜（県内産）、野菜（県内産）がメインであることが明らかになった。

IV. 事例にみる宮城県の一軒宿の特徴

1. ながまち温泉ペアーレ仙台

2003年10月20日には仙台市太白区長町南1丁目にある「ながまち温泉ペアーレ仙台」（以下、ペアーレ仙台）で経営者への聞き取り調査を行った。ペアーレ仙台は1999年5月に仙台南社会保険事務所が設立した公共の施設である。土地面積は4,158.25㎡、施設は5階建て（写真1）、延べ床面積は7355.66㎡である。従業員は社員が12名、スポーツジムの指導員が40名、食堂や

清掃などのスタッフが30名である。

1階にはスポーツジム（写真2）、フロント、ラウンジがある。スポーツジムの営業時間は9：30～21：00までで、設備は100mウォーキングコース、筋力マシン25台、有酸素系マシン42台がある。スポーツジムの利用者は老若男女であるが、一日当たりの利用客は約300人である。

2階にはサウナ付きの浴場（写真3）がある。源泉は42℃で、泉質は塩化物泉である。主な効能は筋肉痛、腰痛、関節痛である。入湯料は6：00～8：00と17：00～21：00が大人500円、小人（小学生以下）300円、10：00～17：00が大人700円、小人（小学生以下）400円となっている。ペアーレ仙台では、街なかで湧出する天然温泉が一番の売りと考えている。宮城県の市町村別温泉地数のデータでは「太白温泉」であるが、ペアーレ仙台では「ながまち温泉」と名付けている。

3階にはプールと温泉休憩室がある。プールの営業時間は、月・水曜日は9：30～14：50、火・木曜日は16：00～21：00、金・日曜日・祝日は9：30～21：00、土曜日は9：30～13：00と17：30～21：00で、料金は1回につき大人500円、小人（小学生以下）300円であるが、小人（小学生以下）は日曜日と祝日のみ利用できる。プールは長さが20m×5コースで、水深は1m20cm、水温は30.5℃となっている。水温を高く設定しているのは、水中ウォーキングの利用者が体を冷やさないようにするためである。プールでは子どもの水泳教室も行われている。

4階と5階には客室がある。客室は洋室シングル（写真4）、洋室ツイン、和室、和洋室、身体障害者用のバリアフリー室の合計29室があり、全収容定員は52人である。

ペアーレ仙台では、健康ストレッチやエアロビクスなどの「健康づくり講座」と、カラオケや書道などの「生きがいきづくり講座」（写真5）も行っている。全体では年に70～80の講座が開講されているが、1講座は3か月、月4回開講、定員約40名となっている。講師は宮城県芸



写真1 ペアーレ仙台の外観



写真2 スポーツジム



写真3 浴場

術協会の紹介によって決定される。講座は広告や河北新報などに掲載して募集し、受講希望者は広告に付いている申込書やFAXで申し込み



写真4 洋室シングル



写真5 「生きがいきり講座」

を行う。

ペアーレ仙台は、第2表では4番になるが、予約方法は電話、利用客の構成は一人、地方別居住地は東北地方、交通手段は自家用車、年代は50代、選定理由は泉質、滞在日数は日帰り、利用客の多い時期は4～6月、一人あたりの標準料金（一泊2食付、税込）は5,000円台がメインである。客室の年間利用客は約12,000人、スポーツジム、浴場、プール、講座を合わせた年間利用客は約470,000人で、利用客数はともに設立当初からほぼ横ばいで推移しているという。

ペアーレ仙台の問題点は、経営者によると、①2階に浴場、3階にプールがある構造上、揚水しなければならないため、月々の電気代と水道代との合計が約500万円と高いこと、②ス

ポーツジム、温泉、プール、客室、講座の利用客がいるため、建物の外にある117台分の無料駐車場だけでは足りないこと、③利用客の要望を記入してもらうアンケートを実施しているが、性別や年代によって要望が異なるため、全ての要望を取り入れるのが難しいこと、の3点をあげている。

ペアーレ仙台のこだわりは、温泉であることが聞き取り調査から伺えたが、利用客もペアーレ仙台の一番の売りである泉質が好きで訪れている。利用客の構成は一人をメインとする個人客であるため、客室は少人数向けの造りになっているが、浴場、スポーツジム、プールは宿泊しない利用客も多く訪れるため、造りは大人数向けになっている。

この聞き取り調査以降の動きについてみると、全国に35か所あるペアーレは、社会保険庁⁶改革の一環として2010年までにすべて廃止または売却されることが2005年10月の国会で決定した。この動きによって、ペアーレ仙台は2009年8月28日に6億1円で落札した冠婚葬祭事業の（株）ペルコへ売却されることが決定した。ペアーレ仙台の営業は2009年9月27日で終了し、その後は建物が解体された。2010年3月5日にはペアーレ仙台の跡地に葬祭場の「シティホール長町」が建設された。

2. 義々温泉

2003年10月23日には川崎町前川にある義々温泉で経営者への聞き取り調査を行った。標高約850mに位置する義々温泉は、山々に囲まれた一軒宿である⁷。名称は「義々温泉」のみで温泉名の後に施設名が付いていない。開湯は1876年であるが、その当時は湯治場であった。

「義々」とは義々温泉の前に広がる険しい岩壁を指している。現在の経営者は6代目である。従業員は12人で、パートやアルバイトは雇っていない。

施設は東館と1992年建築した西館がある。階数は2階建てである。東館には湯治用の和室が4室、西館には床暖房の設備がある和室が19室と自炊用の和室が6室の合計29室がある。全収

容定員は175人である。

浴場は宿泊用と日帰り用に分かれている。宿泊用には内風呂と露天風呂がある。内風呂は43～46℃に設定された「あつ湯」と40～42℃に設定された「ぬる湯」がある。露天風呂は40～42℃に設定されている。一方、日帰り用は内風呂と露天風呂がある。温度はどちらも40～42℃に設定されている。日帰り入浴は10：00～14：00までで、入湯料は800円である。日帰り用の浴場は定員が約20人であるため、それ以上になる場合は受付を一時中止している。日帰り入浴では日帰り用の浴場しか利用できないが、宿泊した場合は日帰り用と宿泊用のどちらの浴場を利用しても良い。源泉は58℃で、泉質は単純温泉である。主な効能はリウマチ、糖尿病、胃腸病、疲労回復である。談話室には飲泉所も設けられている。

食事は食堂でとる。料理は1汁3菜で、メニューは連泊する利用客が飽きないように毎日変えている。食材は、宮城県内の米・野菜・魚・山菜・味噌・豆腐などを使用している。また、食事の際に出している笹茶は銭々温泉の裏山で採れた笹から作った自家製である。メニューは利用客の好き嫌いや体調、年齢なども考慮して決定する。

朝食後には談話室で水出しコーヒーのサービスを行っている。また、十五夜には利用客が団子や果物を自由に食べられるサービスを行っている。さらに、晴れた夜にはボンネットバス「蔵王ぎんれい号」で蔵王山頂へ星を見に行くサービスも行っている。

銭々温泉は、第2表では11番になるが、予約方法は電話、利用客の構成は家族、地方別居住地は関東地方、交通手段は自家用車、年代は50代、選定理由は泉質、滞在日数は1泊、好まれる料理は野菜（県内産）、利用客の多い時期は7～9月、一人あたりの標準料金（一泊2食付、税込）は15,000円台がメインである。

銭々温泉のこだわりは、当温泉の歴史、温泉、景観、料理であることが聞き取り調査から伺えたが、年間では泉質が好きで訪れる利用客が多い。なかには、泉質や効能を銭々温泉の

Web ページや雑誌などで調べて訪れる利用客や、温泉が気に入り、チェックアウトの際には次回の宿泊の予約をしていく利用客もいる。日帰り入浴と宿泊を合わせた年間利用客はどの年も12,000人前後となるが、その利用客の構成は家族をメインとする個人客である。こうした利用状況に合わせて、客室や浴場などの全設備は少人数向けの造りになっている。今後は利用客が求めて訪れる温泉を大事にしながら銭々温泉ならではの料理やサービスも充実させて提供していきたいと考えている。

3. わたり温泉鳥の海

2003年11月3日には亘理町荒浜海水浴場に隣接する「わたり温泉鳥の海」で経営者への聞き取り調査を行った。わたり温泉鳥の海は亘理町が運営する公共の宿泊施設である。従業員は社員が8人、シルバー人材センターの委託者が20人、パートが19人である。

施設は3階建てで、1階にはフロント、レストラン、浴場、客室、売店、2階には宴会場、3階には配膳室がある。

温泉は2002年4月に湧出した。それ以前は沸かし湯であった。源泉は44℃、泉質は単純温泉、主な効能は五十肩、神経痛、筋肉痛、くじき、腰痛、関節痛である。日帰り入浴は10：00～21：00までで、入湯料は大人（中学生以上）が500円、子ども（小学生）が250円、幼児が無料となっている。

客室は和室が9室あり、全収容定員は30人である。大広間も利用した場合は全収容店員が72人になる。

レストランおよび宿泊の際に提供する料理は、主に宿に隣接した荒浜漁港で水揚げされた魚介類を使用し、時期によっては郷土料理の「はらこめし」(写真6)^{▼8}や「ほっきめし」、「しゃこめし」を提供している。

わたり温泉鳥の海は、第2表では14番になるが、予約方法は電話、利用客の構成は家族、地方別居住地は東北地方、交通手段は自家用車、年代は40代、選定理由は泉質、滞在日数は日帰り、好まれる料理は魚（県内産）、利用客



写真6 はらこめし

の多い時期は10～12月、一人あたりの標準料金（1泊2食付、税込）は6,000円台がメインである。

10～12月に利用客が多いのは、秋の郷土料理「はらこめし」と温泉を組み合わせる当施設に訪れるためである。2003年11月3日13:30頃には建物の外にある200台分の無料駐車場に88台の自家用車が駐車してあった。ナンバープレートから都府県別でみると、宮城県は78台、山形県は3台、岩手県は2台、福島県・栃木県・東京都・京都府・香川県は1台ずつであった。この時点では宮城県内の利用客が89%、宮城県外の利用客が11%であった。

わたり温泉鳥の海のこだわりは、温泉と料理であることが聞き取り調査から伺えた⁹が、年間では泉質が好きで訪れる利用客が多い。なかでも、10～12月は秋の郷土料理である「はらこめし」と温泉を組み合わせる訪れる利用客が多い。日帰り入浴と宿泊を合わせた年間利用客はどの年も160,000人前後となるが、その利用客の構成は家族をメインとする個人客である。こうした利用状況に合わせて、客室は少人数向けの造りになっている。浴場やレストラン、宴会場は宿泊しない利用客も多く訪れるため、造りは大人数向けになっている。

この聞き取り調査以降の動きについてみると、わたり温泉鳥の海は、老朽化による建て替え工事のため2007年11月30日の営業をもって一時閉館した。旧施設は3階建てであったが、

2008年2月6日に再開した新施設は鉄筋5階建てになり、1階はフロント、産地直売所、体験学習室、休憩室、2階は宴会場と会議室、3階は宿泊施設（和室9、洋室2、和洋室1の12室）、4階はレストラン、5階は露天風呂とサウナ付きの浴場となった。延べ床面積は約4,200㎡である。日帰り入浴は、以前と比べると入湯料は変わらないが、時間は1時間延長して10:00～22:00までとなった。

また、2011年3月11日に発生した東日本大震災の津波では、施設の1階部分が損壊した。この影響により、わたり温泉鳥の海は休業を余儀なくされたが、日帰り入浴は2014年10月4日に再開した。レストランは「はらこめし」を提供する期間（2015年10月1日～12月13日）のみ再開した（2015.9.26河北新報）。2016年は9月3日～12月11日の期間のみ営業する（2016.8.31河北新報）。宿泊施設については、経営をホテル佐勘（仙台市）に委託することが決定し、2017年中には再開する予定であることが報じられた（2016.8.30河北新報）¹⁰。

V. おわりに

本稿では、宮城県の一軒宿の特徴を明らかにするため、ここでは宮城県の一軒宿で行った利用客の実態についての経営者へのアンケート調査のデータ（11軒分）と経営者への聞き取り調査のデータ（3軒分）から検討した。また、この分析を進めるにあたっては、「一軒宿」の定義、文献にみる一軒宿の特徴、宮城県の一軒宿の統計的把握も行った。ここで得られた点は以下の通りである。

「一軒宿」の定義は、辞書や法令、既存文献に記載されていない。環境省では都道府県別温泉地名と宿泊施設数を公表しているが、このデータでは宿泊施設数が1軒のみの温泉地を「一軒宿」と捉えている。一軒宿の定義は曖昧であるため、本研究ではこの環境省の捉え方に従うことにした。

一軒宿についての地理学研究は見つけることができなかったが、一軒宿を紹介した既存文献

からは、①経営者のこだわり（例えば、歴史、温泉、建造物、景観、料理）が一番の売りであること、②利用客はそのこだわりが好きで訪れること、③収容定員は少ないため、利用者はツアーや生徒・学生団体などが利用しやすい大人数向けよりも一人や家族、友人などで利用しやすい少人数向けの部屋や設備になっていること、④名称は「〇〇温泉△△△△」のように温泉名の後に施設名が付いている一軒宿が多いが、なかには施設名を付けずに「〇〇温泉」のみの一軒宿もあること、の4点を読み取ることができた。

宮城県の一軒宿は、市町村別温泉地名と宿泊施設数のデータ（2003年3月31日時点）によると、定義温泉（仙台市青葉区）、若林温泉（仙台市若林区）、名取川温泉、太白温泉、神ヶ根温泉（ともに仙台市太白区）、白石温泉（白石市）、神次郎温泉（角田市）、宮・曲竹温泉、鎌倉温泉（ともに蔵王町）、谷山温泉（村田町）、峩々温泉、今宿温泉（ともに川崎町）、増田温泉（名取市）、荒浜温泉（亘理町）、湯ノ原温泉（松島町）、台ヶ森温泉、南川温泉（ともに大和町）、牛野森温泉（大衡村）、鹿島台温泉（大崎市）、薬菜温泉、大森温泉、切込温泉（ともに加美町）、湯浜温泉、湯ノ倉温泉（ともに栗原市）、野蒜温泉（東松島市）、女川温泉（女川町）、早稲谷温泉（気仙沼市）の27か所であることがわかった。温泉地別の宿泊施設数が多い遠刈田温泉や鳴子温泉、湯元温泉（＝秋保温泉）、作並温泉などは、少なくとも宮城県では周知されている温泉地であるのに対して、一軒宿の温泉地はその地元の人にしか知られていない温泉地も多いのではないかと考える。

利用客の実態にみる宮城県の一軒宿の特徴は、アンケート調査の結果によると、利用客の多い時期は4～12月、予約方法は電話、利用客の構成は家族または一人、地方別居住地は東北地方、交通手段は自家用車、年代は40代以上、滞在日数は日帰りまたは1泊、選定理由は泉質と効能、一人あたりの標準料金（1泊2食付、税込）は5,000円台～6,000円台または10,000円台、好まれる料理は魚（県内産）、山菜（県内

産）、野菜（県内産）がメインであることが明らかになった。

ペアーレ仙台、峩々温泉、わたり温泉鳥の海で行った聞き取り調査からは、①ペアーレ仙台的こだわりは温泉、峩々温泉のこだわりは歴史、温泉、景観、料理、わたり温泉鳥の海のこだわりは温泉、料理であるが、利用客は3軒ともに泉質が好きで訪れること、②利用客は3軒とも一人や家族がメインであるため、峩々温泉は客室や浴場などの全設備が少人数向けの造りになっているのに対し、ペアーレ仙台とわたり温泉鳥の海では客室が少人数向けの造りになっているものの、ペアーレ仙台の浴場やスポーツジムやプール、わたり温泉鳥の海の浴場やレストランは宿泊しない利用客も多く訪れるため、造りは大人数向けになっていること、③名称は、「ながまち温泉ペアーレ仙台」（宮城県の市町村別温泉地数のデータでは太白温泉）と「わたり温泉鳥の海」（宮城県の市町村別温泉地数のデータでは荒浜温泉）は温泉名の後に施設名が付いているが、「峩々温泉」は施設名を付けずに温泉名のみであること、の3点を読み取ることができた。この3点は一軒宿についての既存文献から読み取れた特徴とも一致する。

最後に、聞き取り調査で訪問した「わたり温泉鳥の海」は2011年3月11日に発生した東日本大震災の津波により被災し、休業を余儀なくされたが、2014年10月4日には日帰り入浴が再開し、続いて2015年10月1日にはレストランも再開した。宿泊施設は、2016年8月31日時点では再開していないが、2017年中には再開の予定であることが新聞（2016.8.27河北新報、2016.8.30河北新報）に掲載されたため、今は一日も早く全面復旧し、震災前のにぎわいが戻ることを願うばかりである。

謝辞

本研究の作成にあたっては、アンケート調査に協力していただいた一軒宿の皆様、聞き取り調査に協力していただいたペアーレ仙台、峩々温泉、わたり温泉鳥の海の皆様、市町村別温泉

地数のデータを提供していただいた宮城県保健福祉部薬務課薬事温泉班・技師・鈴木理代様到大変お世話になりました。ここに記して心より感謝申し上げます。

参考文献・資料

- ・NTT 労働組合編（2001）：巻末グラビア 湯めぐり紀行 いろり火燃える郷愁の一軒宿 群馬・法師温泉長寿館、あけぼの18-6、69-72.
- ・ニューライフ編（2000）：湯の国巡り 日本人と温泉 このおすすめの一軒宿(1)、ニューライフ46-9、67-69.
- ・ニューライフ編（2000）：湯の国巡り 日本人と温泉 このおすすめの一軒宿(2)、ニューライフ46-10、63-66.
- ・野口冬人（1999）：温泉博士の太鼓判 全国名湯一軒宿ベスト12（特集 日本列島 お湯のいい宿）、太陽37-5、98-103.
- ・宮城県保健福祉部薬務課（2003）：平成15年3月31日現在・地域別温泉利用状況調べ（浴用・飲用利用分）.
- ・河北新報（2015.9.26）：はらこめし復活 被災の温泉施設.
- ・河北新報（2016.8.27）：わたり温泉、民間に貸与へ、被災し経営悪化.
- ・河北新報（2016.8.30）：わたり温泉鳥の海、ホテル佐勘に経営委託.
- ・河北新報（2016.8.31）：わたり温泉鳥の海、名物「はらこ飯」今年も.

注

- ▼1 温泉法の詳細は、法令データ提供システムで公開されている（<http://law.e-gov.go.jp/htmldata/S23/S23HO125.html>）を参照。最終検索は2016年8月25日。
- ▼2 物質と1kg中の含有量および療養泉は以下の通りである。なお、物質によっては1kgの含有量および療養泉が両方または片方のみとなっている。
 - ①「溶存物質（ガス性のものを除く）」…1kg中の含有量総量1000mg以上、1kg中の療養泉総量1000mg以上。

- ②「遊離二酸化炭素」…1kg中の含有量250mg以上、1kg中の療養泉1000mg以上。
- ③「リチウムイオン」…1kg中の含有量1mg以上。
- ④「ストロンチウムイオン」…1kg中の含有量10mg以上。
- ⑤「バリウムイオン」…1kg中の含有量5mg以上。
- ⑥「総鉄イオン」…1kg中の含有量10mg以上、1kg中の療養泉20mg以上。
- ⑦「マンガンイオン」…1kg中の含有量10mg以上。
- ⑧「水素イオン」…1kg中の含有量1mg以上、1kg中の療養泉1mg以上。
- ⑨「臭素イオン」…1kg中の含有量5mg以上。
- ⑩「沃素イオン」…1kg中の含有量1mg以上、1kg中の療養泉10mg以上。
- ⑪「フッ素イオン」…1kg中の含有量2mg以上。
- ⑫「ヒドロヒ酸イオン」…1kg中の含有量1.3mg以上。
- ⑬「メタ亜硫酸」…1kg中の含有量1mg以上。
- ⑭「総硫黄」…1kg中の含有量1mg以上、1kg中の療養泉2mg以上。
- ⑮「メタほう酸」…1kg中の含有量5mg以上。
- ⑯「メタけい酸」…1kg中の含有量50mg以上。
- ⑰「炭酸水素ナトリウム」…1kg中の含有量340mg以上。
- ⑱「ラドン」…1kg中の含有量20（百億分の1キュリー単位）以上、1kg中の療養泉30（百億分の1キュリー単位）=111Bq以上（8.25マッヘ単位以上）。
- ⑲「ラジウム塩」…1kg中の含有量1億分の1mg以上。

▼3 宮城県の市町村数は、宮城県総務部市町村課のWebページ（<http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/sichouson/index-g.html>）によると、2003年3月31日時点では71市町村（10市59町2村）であったが、2003年4月から2009年9月にかけては平成の大合併が進み、2016年8月31日時点では35市町村（13市21町1村）となっている。本研究では、2016年8月31日時点の市町村名で捉えることにした。Webページの最終検索は2016年8月31日。

▼4 宿泊施設が0軒の温泉地は、宿泊ができない日帰り温泉施設である場合や宿泊施設が廃業している場合などである。

▼5 泉質は、温泉に含まれている化学成分の種類とその含有量によって、単純温泉、塩化物泉、炭酸水素塩泉、硫酸塩泉、二酸化炭素泉、含鉄泉、酸性泉、含よう素泉、硫黄泉、放射能泉の10種類に分類される。このなかで、3軒の回答があった塩化物泉と2軒の回答があった単純温泉の基準と特徴は、日本温泉協

会のWebページの「温泉の泉質のいろいろ」(<http://www.spa.or.jp/onsen/501/>)によると、塩化物泉は温泉水1kg中の溶存物質（ガス性のものを除く）の含有量総量が1,000mg以上で、うち陰イオンの総量の20%以上が塩化物イオンからなる温泉である。特徴は、この温泉に含まれる塩分が肌につくことによって汗の蒸発を防ぐため、保温効果が高まることである。一方、単純温泉とは、温泉水1kg中の溶存物質（ガス性のものを除く）の含有量総量が1,000mg未満で、湧出時の泉温が25℃以上の温泉である。特徴は、肌触りが柔らかく、肌への刺激が少ないことである。Webページの最終検索は2016年8月31日。

▼6 社会保険庁は2010年1月に廃止されて日本年金機構が発足したため、社会保険事務所の業務は日本年金機構の年金事務所へ移行した。なお、仙台南社会保険事務所は日本年金機構仙台南年金事務所へ改称された。

▼7 銭々温泉のWebページ(<http://www.gagaonsen.com/>)には、銭々温泉の歴史、部屋、温泉、料理、サービスなどが写真を含めて記載されている。Webページの最終検索は2016年8月31日。

▼8 「はらこめし」とは、秋鮭の切り身を醤油等で軽く煮込んで取り出した後、その煮汁でごはんを炊き込み、最後にごはんの上に煮込んだ秋鮭の切り身とイクラの醤油づけを盛りつけて完成させた郷土料理である。

▼9 新施設がオープンした2008年2月6日以降は、温泉と料理に加えて、3階以上から見える海の景観もこだわりになっていることがわたり温泉島の海のWebページ(<http://www.datenawatari.jp/publics/index/97/>)の記載から伺える。Webページの最終検索は2016年8月31日。

▼10 この背景については、2016年8月27日の河北新報に記されている。それによると、2015年度は約154,000人の利用客があったものの、宿泊施設の休業とレストランの期間営業による収入減で、収支は約1,700万円の赤字であった。亘理町ではこの状況から再建するのに民間の経営ノウハウの導入が不可欠と判断したようである。亘理町はホテル佐勘に施設を貸与して賃料を受け取るが、その詳細についてはこれから決定するという。